

会長の挨拶 37 一職種一会員制の本質—その 4—

各職業人は一方においては、自己の職業経験上体得した立場に立ちながら、更に一步進めて抜本的に職業を超越した立場から自己の職業に対して体制外の高い立場から批判を加え、抜本的解決を、多くの行き詰った問題に対して提唱することができる。そしてロータリーとは、このような立場をとる職業人の総体なのであるから、ロータリーの提唱する職業倫理は、その地域社会の全職業人の立場に立ちながら、他方、どの職種の制約からも一頭地抜いた一般的職業倫理基準を認識し、社会の全職業人に対して、理論的にそれを唱導出来るという特有の性格のものであるということが判明するのである。

ロータリーは、その話し合いの機能を通じて特定地域社会の代表的職業人の頭脳を結集し、寸刻の中に地域社会の職業的情報を交換し、その全貌を把握し、一方においては全職種の経験に根ざし、他方においては、全職種の因習から自由な、そして、あくまで未来を目指す、一般的指針を唱導するに最も適した組織体なのであって、ここにこそ、一職種一会員制の本質が存在するものと言うことができる。

(小堀憲助著『ロータリー思想の理論構造』より引用)